

2019 年秋期

奈良学園公開文化講座

ガラス張りの天窓があるサンルームと食堂。

この部屋に武者小路実篤、小林秀雄、滝井孝作など多くの文人・画家が集い、
芸術を語り人生を論じていました。

作家志賀直哉が昭和 4 年から 9 年間にすぎた旧居でのこの集いが、
人間的な交際の場や文化活動の核となり、
「高畑サロン」と呼ばれるようになったのです。
このサロンがあった場所での公開講座です。
静かな時間の流れの中で、創造的な時間をお楽しみください。



◆参加費	各回 350 円（入館料込、学校法人奈良学園設置校の在籍者本人及び教職員は無料です）
◆定員	各回 30 名（各回、事前申込先着順）※定員になり次第、申込を締め切ります。
◆会場	志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）奈良市高畑町 1237-2
◆申込	志賀直哉旧居（0742-26-6490）受付にてお申し込みください。
◆主催	学校法人奈良学園、志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）

志賀直哉旧居

平成12年に国の登録有形文化財(第29-34～36号)に認定され、平成28年には奈良県指定文化財として指定されたこの邸宅は、広く一般の方々に公開しています。また、各種公開講座の開催や奈良学園が設置する各学校の生徒・学生等が利用できるセミナーハウスとして活用しています。

休館日 年末年始（12月28日～1月5日）

入館時間 午前9:30～午後5:00（3月～11月）
午前9:30～午後4:00（12月～2月）

入館料 一般350円 中学生200円 小学生100円

お問い合わせ 電話 0742-26-6490 所在地 奈良市高畑町 1237-2



JR 奈良駅、近鉄奈良駅下車、(市内循環) 奈良交通バス
約 10 分「破石町」バス停下車 東へ約 350m、北へ約 50m



Google Map

2019 年秋期 奈良学園公開文化講座

《講座概要》

第 33 回《志賀直哉の唯名論》2019 年 9 月 30 日（月）14:00～16:00
講師：大原荘司 志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）館長・奈良学園大学名誉教授
・既成概念からも概念形成の誘惑からも自由で、原初的観察眼を備えて人間の赤心を描こうとした志賀直哉の創作態度を唯名論の立場からふりかえる。志賀直哉の文学は、普遍的実在の把握を急がず、一瞬の情景の奥に、心の働きの本統を発掘し、それを精確に描写することに重心が置かれた。普遍論争における実在論ではなく唯名論に立つものといえる。
第 34 回《沖縄に見る日本文化の基層》2019 年 10 月 21 日（月）14:00～16:00
講師：渡邊規矩郎 桃山学院教育大学客員教授・元奈良学園大学特任教授
・民俗学者の柳田國男は「文化は僻地に残る」と言ったが、沖縄には、日本で古代に使われた言語が今も残っている。日本本土で廃れてしまった伝統行事が脈々と受け継がれ、自然崇拜・祖先崇拜の祭りは生活の中に息づく。「柳は緑、花は紅、人はただ情、梅は匂」の琉球古歌「柳節」に象徴される沖縄の精神文化を紹介しながら、改めて日本文化の基層を考えてみたい。
第 35 回《第 2 次大戦中の日本の原子核開発》2019 年 10 月 26 日（土）14:00～16:00
講師：政池明 元奈良学園大学情報学部学部長教授・京都大学名誉教授
・第 2 次大戦中米国の物理学者たちが原爆開発の中心的役割を果たしたことはよく知られている。一方日本でも大戦中理研と京大の原子核物理学者が原子エネルギー/原爆の開発に関わりを持っていたが、敗戦によって彼らが進めようとしていた計画は道半ばで終焉を迎えることとなった。最近日米で新しく発見された史料に基づいて、彼らが戦中、何を考え、どのような研究開発を行っていたのかを検証してみよう。
第 36 回《水と氷の科学—オンザロックと寒剤》2019 年 11 月 11 日（月）14:00～16:00
講師：木村優 奈良学園大学名誉教授・奈良女子大学名誉教授
・ウオッカ（0℃、30cc）と水（0℃、30cc）を混合すれば 8℃になる。一方、そのウオッカに約 9cc（＝約 9g）の角氷（0℃）を投入（浮かぶ）すれば、5 分後には約 -9℃に冷却する（＝寒剤）である。水と氷はどこが違うのでしょうか？オンザロックは氷にウイスキーなどを注いだ飲み物です。寒剤はエントロピー（乱雑さ）と融解熱で理解される現象です。メタンハイドレートやガス麻酔などの水の話もしたいと思う。
第 37 回《宋書倭国伝から古墳時代を再現する》2019 年 11 月 25 日（月）14:00～16:00
講師：三辻利一 奈良教育大学名誉教授・鹿児島国際大学客員教授
・私の研究目的は分析化学の方法で古墳時代を再現することです。今回は「宋書倭国伝」を読んで、文献から古墳時代を再現しようと思います。もちろん、古墳の考古学研究のデータも取り入れて話を進める予定です。文献や考古学研究の成果を土器の元素分析を通じて実況しようというのが自然科学側の考え方です。そのために、生産地が分かっている土器片試料を分析し、土器胎土に地域差があることを実証し、その原因を明らかにしておく必要があります。

